

都道府県・ 指定都市番号	43	都道府県・ 指定都市名	熊本県	研究課題番号・校種名	2 中学校
				教科名	国語科
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ②全国学力・学習状況調査の活用等に係る課題（学力調査官担当） 全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた、指導方法の工夫改善等に関する研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	にしきちょうりつにしきちゅうがっこう 錦町立錦中学校（331人）				
所在地（電話番号）	熊本県球磨郡錦町大字一武1115番地（0966-38-1043）				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://jh.higo.ed.jp/nishikij/				
研究のキーワード	全国学力・学習状況調査 授業アイデア例 思考力・判断力・表現力等				
研究結果のポイント	<p>○ 全国学力・学習状況調査の結果から分かった課題を克服するための授業を各学年で実践する中で、「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）」（以下「授業アイデア例」という。）を活用したことにより、その時間に身に付けさせたい力を意識した単元計画を作成することができ、生徒の関心・意欲を高める言語活動を行ったり、仲間との協働による学習を設定したりすることができた。</p> <p>○ 複数の図表・資料を活用した授業を展開したことにより、文章をより丁寧に読んだり、複数の資料を関連付けたりしながら、情報を捉えようとする生徒の姿が見られるようになった。</p> <p>○ グループでの話し合いの仕方に段階的に取り組んだことにより、話し合いの技能が向上し、積極的に学習に取り組む態度が高まった。</p> <p>○ 朝自習で取り組んだ語彙を豊かにするための活動により、語彙の拡充が図られ、学力の向上につながった。</p>				

1 研究主題等

(1) 研究主題

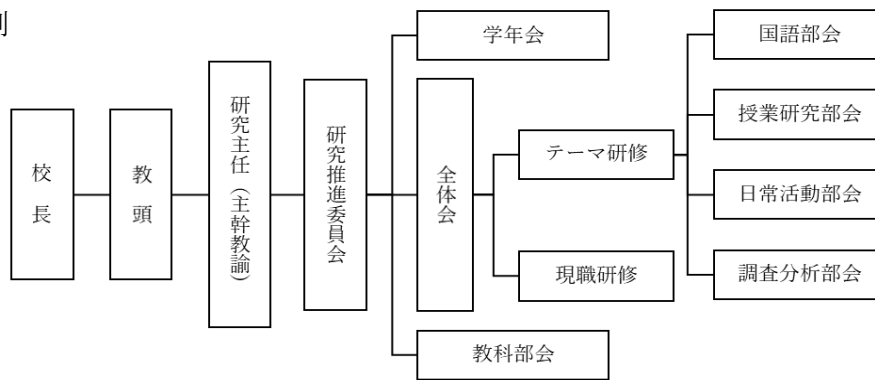
思考力・判断力・表現力を育む国語科の授業の創造
～一人一人の生徒の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実～

(2) 研究主題設定の理由

全国学力・学習状況調査での本校の課題は、主に三つあった。まず、言語についての知識・理解・技能、次に、根拠をもって考えをまとめること、そして、複数の資料や長文から目的や意図に応じて情報を読み取ることである。

これらの力を生徒に身に付けさせるため、「授業アイデア例」を活用した授業改善や、基礎的・基本的な知識・技能が定着するような日常的活動を工夫していくことにした。特に、語彙を豊かにするための取組、根拠を明確にして考えをまとめたり、図表や複数の資料を関連付けて情報を捉えたりするような授業の工夫、そして目的が明確で必然性のある話し合い活動に取り組むことによって、一人一人の学力や学習状況に応じた学習指導の改善・充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育むことができるような国語科の授業を目指したいと考えた。

(3) 研究体制



【研究推進委員会】研究を推進していく上での企画・立案について、全体的に提案する内容を事前に検討・確認する。

校長，教頭，教務主任，研究主任（主幹教諭），国語部，各専門部長で構成する。

【全 体 会】理論研究や研究授業を行うとともに，研究内容の検討・修正を行う。

【授 業 研 究 部】理論に基づいた授業実践についての企画・立案を行う。

【日 常 活 動 部】授業に関わる日常の活動についての企画・立案を行う。

【調 査 分 析 部】生徒の意識調査や実態調査を行う。

(4) 2年間の主な取組

平成 29 年 度	4月	研究計画，組織づくり，全国学力・学習状況調査の実施，国語科年間計画の検討
	5月	実態調査①，全国学力・学習状況調査の結果分析，研究の方向性の検討
	6月	第1回研究授業
	7月	第2回研究授業
	8月	「授業アイデア例」の活用による指導方法の検討
	9月	授業実践，日常的な活動にかかる語彙の拡充の検討
	10月	第3回研究授業
	11月	「授業アイデア例」の活用による授業実践
	12月	熊本県学力調査の実施及び国語科における定着状況の分析，実態調査②と分析
	1月	「授業アイデア例」の活用による授業実践
	2月	中間まとめ
	3月	平成29年度の研究の反省と平成30年度の計画
	平成 30 年 度	4月
5月		全国学力・学習状況調査の結果分析，第1回・第2回研究授業
6月		「授業アイデア例」の活用による指導方法の検討
7月		実態調査①
8月		全国学力・学習状況調査の誤答傾向分析，公開授業単元決定
9月		「授業アイデア例」の活用による授業実践，公開授業に向けた指導案作成
10月		実態調査②，公開授業事前授業
11月		2年間の成果と課題を踏まえた授業公開（錦町立錦中学校研究発表会を実施）
12月		熊本県学力調査の実施及び国語科における定着状況の分析，実態調査③と分析
1月		課題テストによる課題改善状況の検証
2月		実態調査④（2年間の変容分析），2年間の研究のまとめ

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 「授業アイデア例」を活用した授業改善

「授業アイデア例」を位置付けた年間計画を作成し、それに沿った授業実践を行う。その際、生徒が興味・関心をもち、見通しをもって学習に取り組むことができるよう学習課題や導入を工夫するとともに、目的が明確で必然性のある話し合い活動ができるようにし、学びを自覚し書く力の育成につながるようなまとめや振り返りを設定していく。

② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための日常的活動の在り方

朝自習「錦トレタイム」において、語彙を豊かにするための活動や、話し合いの仕方についての学習訓練を実施する。また、学びを支えるような学習環境づくりを心がける。

(2) 具体的な研究活動

① 「授業アイデア例」を活用した授業改善

全国学力・学習状況調査から明らかになった課題を克服するために、「授業アイデア例」の中から各学年学期に一つずつの授業を年間指導計画の中に位置付けた。教科書の単元・教材のねらいとの関連や、学習過程との組み合わせを考慮し、そのまま取り入れるのではなく単元の中の学習活動の一つとして組み込んだものもあれば、特設単元として設定したものもある。具体的には、次のような学習を行った。

根拠をもって考えをまとめるために、キーワードとなる箇所に線を引いたり抜き出したりする活動や、それを書き込むような形式のワークシートの活用などを行った。また、複数の資料や長文を教材として取り扱うとともに、オリンピックについての新聞記事や読書呼びかけるちらしづくりなど、身近な題材を取り上げて生徒が意欲的に学習に取り組むことができるようにした。学習の終末には、意見を交流した後の自分の考えを整理したり、学習全体を振り返ったりするなどの活動を設定した。

② 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるための日常的活動の在り方

言語についての知識・理解・技能を高めるために、朝自習の時間に漢字の書き取り、視写、辞書引き、読書に取り組むことにした。新聞のコラムを視写し、その中で分からない語句をピックアップして辞書で調べてノートに記録していき、自分だけの語句ノートをつくる、というように連動させて取り組んでいる。漢字の書き取りはテスト形式で行い、何度も同じ問題にチャレンジさせて定着を図っている。何曜日にもどの活動をするか基本計画を学年ごとに決めて実施している。

話し合いの仕方については、まずは必要な話し合いの基本的な型を身に付けさせる必要があると考え、モデルを示してトレーニングする期間を設けた。話し合いのモデルとして「NDAマニュアル (Nishiki jhs group Discussion Activity の略)」を作成し、このマニュアルに沿って簡単なテーマについての話し合いを行った。そして、評価表を示し、自分たちの話し合いを自己評価させた。評価は、3級～名人まで7段階になっており、その後の各授業の中で、生徒たちが自己評価を行い、同時に教師の見取りに基づいたアドバイスをを行いながら評価段階の修正を行っている。

各学年の共有スペースには、新聞や読んでほしい本、意識してほしい言葉などを掲示・展示し、豊かな言語環境を整えるようにして環境面からも働きかけている。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 全校生徒に対して行ったアンケート調査では、次のような変容が見られた。（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合）
 - ・ 授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
(7月) 74.7% → (11月) 84.5%
 - ・ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
(7月) 65.3% → (11月) 80.6%
- 「授業アイデア例」を活用することで、身に付けさせたい基礎・基本をより意識した単元計画をつくることができ、生徒の興味・関心を高める言語活動を構想することができた。これにより、仲間と協働しながら思考したり判断したりする姿が見られるなど、授業改善につながった。
- 「授業アイデア例」の中から今年度年間計画に位置付けたものについて、基になっている全国学力・学習状況調査の問題と類似した問題を作成し、授業実践後に実施した。その結果を全国の反応率と比べてみたところ、正答の反応率が高くなり、条件に合わない解答が減るなど、一定の成果が見られた。
- 教科書以外の身近な資料の使用、生活と結びついた学習活動の設定などにより、生徒は興味・関心をもって学習に取り組むことができた。
- 新聞記事や複数の図表・資料を活用した授業を展開したことにより、文章をより丁寧によんだり、複数の資料を関連付けたりしながら情報を捉えようとする姿が見られた。
- 朝自習で取り組んだ言語についての知識・理解・技能を高める活動が、語彙の拡充など学力の向上につながった。
- 話し合いの仕方に段階的に取り組んだことで、話し合いの技能が向上し、積極的に学習に取り組む態度につながった。
- 豊かな言語環境づくりを行うことができた。休み時間に展示物を手に取る生徒の姿が見られるなど、意識の向上に役立った。
- 「授業アイデア例」を年間計画に位置付ける際、生徒の学習状況に応じた年間計画を作成するためには、その都度見直ししながら更新し続けるという工夫が必要である。
- 話し合いについては、意欲や技能はずいぶん向上しているが、生徒が主体的に学びを深めるには至っていない。更に充実した話し合いになるよう手立てが必要である。

4 今後の取組

更に一人一人の生徒の学力・学習状況に応じた学習指導にしていくために、次のことに取り組んでいく。

- ① 全国学力・学習状況調査の結果に応じて「授業アイデア例」をヒントにその都度見直しを行い、年間計画をより生徒の学習状況に応じたものにして活用していく。
- ② 場面設定や発問の精選など、目的が明確で必然的な話し合い活動の在り方を更に追求し、主体的で対話的な学習を目指す。
- ③ 自分の考えを書く力を高める取組を、更に工夫・開発し、継続して行うことで、書くことに対する意識を高めていきたい。
- ④ 語彙を豊かにするための取組を更に改善・継続し、一人一人の生徒の学力・学習状況に応じた取組にしていく。
- ⑤ 本研究を通して、学校全体で実践した取組もいくつかあった。今後も、本研究を教科の枠を超えた取組として広げ、授業改善につなげていきたい。